

ひたらばつげよとの給ふを承て何の用にかあらむと申、こたへての給ふやう、つばくらめのも  
たるこやすの貝をとらんれうなりとの給ふ、をのこどもこたへて申、つばくらめをあまたころ  
してみるにだにもはらになき物也、たゞし子うむ時なんいかでかいだすらんはうぐとか申、  
人だにみればうせぬと申、又人申やう、おほいづかさのいひかしぐ屋のむねにつくのあなたごと  
につばくらめは巣をくひ侍る、申まめるをのこども廿人許つかはして、あな、ひにあけす  
へられたり、申つばくらめも、人あまたのぼりゐたるにおちて、すにものぼりこす、申つかさ  
の官人くらつまろと申翁申やう、申此あなた、ひをこぼちて、人みなゑりぞきて、まめならん人  
をあらこにのせずへて、つなをかまへて鳥の子うまん間に、つなをつりあげさせて、ふとこやす  
のかひをとらせ給なんよき事なるべきと申、下

〔空穂物語 樓の上ノ下〕ふたつのろうのなかしまばかりをいとたかきそりはしのたかきにして、  
きたみなみにはろうのかうしかきたり、ゑろき所には、ゑろものにはやくかいをつけませてぬ  
りたればきら／＼とす、

## 〔新撰字鏡 虫〕

比○波○阿○波○

〔本草和名十蟲〕石決明 崔禹云、食心目聰了、亦附石生、故名決明、秦皇所覓之不所、恐死誤藥、蓋謂於斯歟、一名紫貝、俗名之也、一名鰐魚甲、仁音補角反、已上二名出陶景注、一名馬蹄決明、似馬蹄、故和名阿波比、

## 〔倭名類聚抄十九貝〕鰐

比○波○阿○波○

四聲字苑云、鰐蒲角反、與蟹同、今案義、魚名似蛤、偏著石、肉乾可食、出青州海中矣、  
本草云、鮑一名鰐魚甲、仁音補角反、與蟹同、今案義、魚名似蛤、偏著石、肉乾可食、出青州海中矣、

## 〔箋注倭名類聚抄八貝〕

比○波○阿○波○

按說文、鰐魚名、後漢書伏隆傳注引郭璞注三蒼云、鰐似蛤、偏著石、四聲字苑  
蓋本於此、本草云、生南海、今注云、石決明生廣州海畔、圖經云、今出萊州卽墨縣南海、因樹屋書影云、  
鰐魚出膠州、膠人言鰐生海水中亂石上、一面附石、取者必泗水持鐵鑊入鑊驟觸、鰐不及覺則可得、